

〈広報紙部門（市部）〉

特 選

「広報おおぶ」2024年12月号 大府市

◇ 審査講評

《田中審査員》

デザインや記事の文体をはじめ、市の施策を住民に伝え、理解を得ようとする狙いを持ったページ構成など、すべてにおいて高い完成度でした。市外の人々の写真やインタビューを広報紙で扱うことは、「なぜ市民ではないのか」という批判を招く恐れがあり、勇気が必要です。ただ、読み進めていくと市の水道や緑化施策と密接に結びついていることがわかります。まるで機内誌を読むように興味深く全体に目を通すことができました。

《和審査員》

膨大な文章量を編集・レイアウトする力量に素晴らしいものがありました。具体的には、見出しの存在、言葉の選定、紙面の強弱設定が読者の視線を誘導する紙面構成に貢献しています。この文章量を支えている取材の厚み、ライティング担当者の熱意にも賛辞を贈りたいと思います。さらなる質の向上を図るため、写真の色の扱いの向上に期待します。照明の影響を受ける体育館などの屋内写真については、肌の色を目視の色味に近づけるような調整するなどの配慮があると、より質の高い紙面になると考えられます。



特 選

「広報ひがしうら」2024年12月号 東浦町

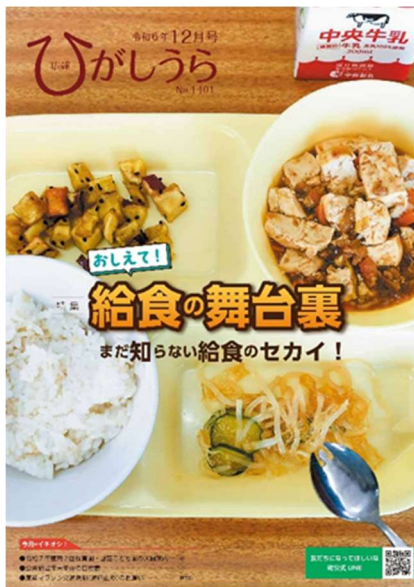
◇ 審査講評

《田中審査員》

身近な学校給食を特集し、町が子供たちのために真剣に取り組んでいることを、詳細に伝えています。学齢期の子を持たない町民でも楽しく読めるレイアウト、文章、写真の使い方で、多くの人を取材した内容の厚みも目を引きまします。情報欄や町の話題を伝えるページもしっかり作りこまれており、完成度が高いと感じました。

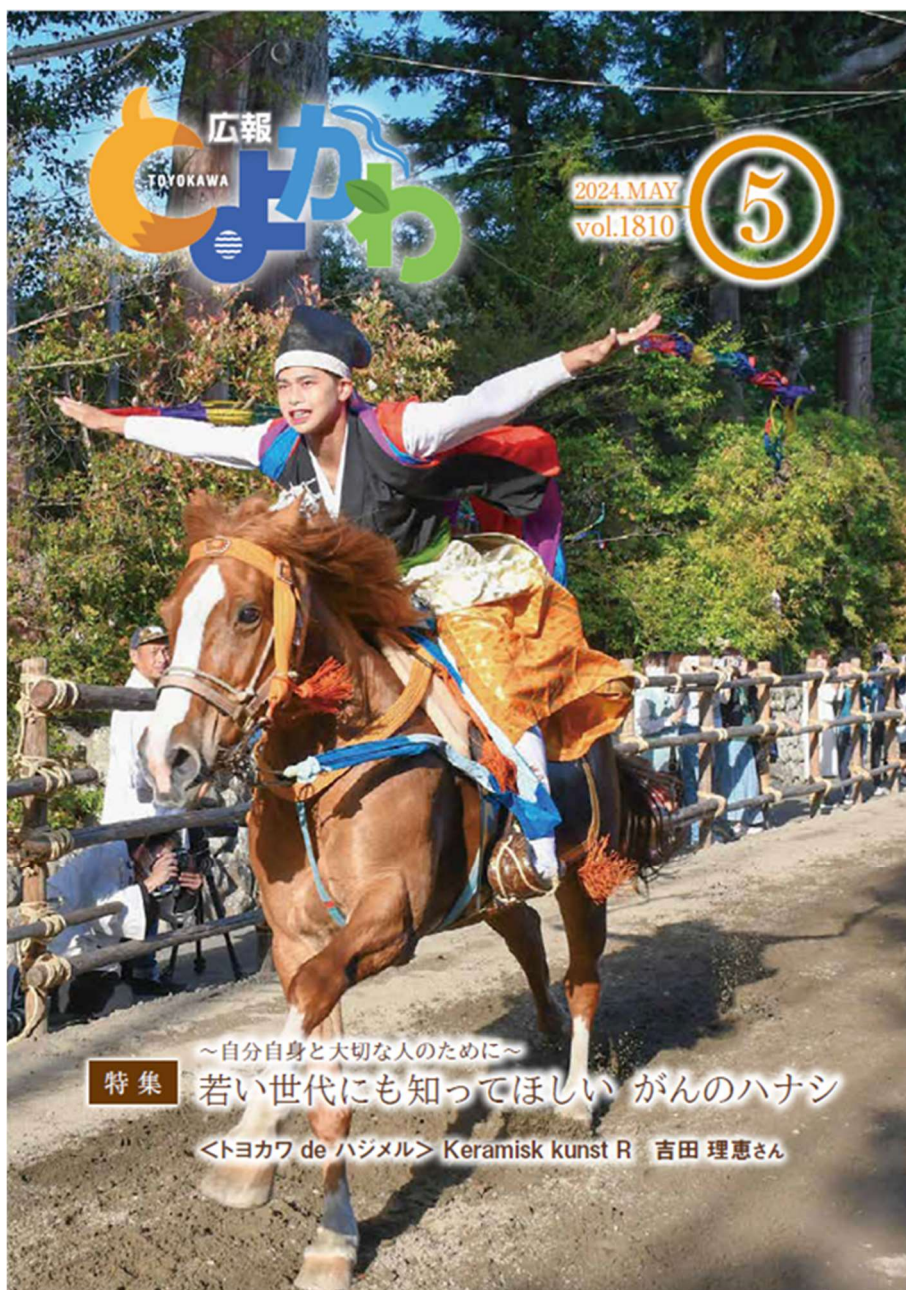
《和審査員》

給食という身近かつ、関心の高いであろうテーマをさらに深掘り、非常に細かい取材を行っている点にテーマを伝える強い意志を感じます。コロナ禍とコロナ後の写真を載せており、数年に渡る時間を包含している点にも取材の厚みを感じました。このように取材やテーマへの意志の強さを感じるからこそ、表紙の写真に、給食をより美味しそうに、魅力的に伝える一層の工夫、質の高さを求めたいと思います。



特 選

「広報とよかわ」2024年5月号 表紙 豊川市



◇ 審査講評《鮫島審査員》

市内の神社で行われた「流鏝馬」での1枚です。やぶさめ馬に乗った少年が両手を真横に広げ、五色の布をたなびかせながら疾走する姿を絶妙なタイミングで撮影しました。少年の真剣なまなざしから緊張感がとても伝わってきます。また、馬が蹴り上げる土の粒も捉えられていて、画面全体に力強さとスピード感を与えています。構図、シャッターチャンス、ピントの三拍子が揃った、完成度の高い素晴らしい写真になりました。

特 選

「広報おわりあさひ」2024年12月号 10・11ページ 尾張旭市



◇ 審査講評《鮫島審査員》

年に1度行われる伝統のお祭りの様子を撮影し、組み写真で紹介しました。子どもから大人までこの日のために練習を積んで本番に臨みます。「棒の手」を披露する少年の力強い表情をメイン写真に据えることで、迫力ある祭りの緊張感が伝わってきます。そして硬軟織り交ぜたサブ写真を配し、祭り全体が分かるように工夫され、まとまりのある組み写真になっています。

〈映像部門〉

特 選

「ゼロカーボンのすゝめ ～市役所・事業所編～」 岩倉市
(<https://www.youtube.com/watch?v=-f9hcSICRpw>)



◇ 審査講評《柴山審査員》

岩倉市は、令和5年にCO₂の総排出量を実質ゼロにする目標を掲げた「ゼロカーボンシティ」を表明しています。そしてこの作品は、気候変動問題のひとつである地球温暖化への取り組みに対して市役所の1日をモデルに、企業や団体それに市民の皆さんに行ってもらおうとする啓発映像です。CO₂削減という地球規模の課題だけになかなか自分事としてとらえることが難しいテーマのため、視聴者の皆さんにいかに身近な問題として意識してもらえるかがポイントだったと思います。そのためこの作品は、意識すればすぐに実践できる身近な取り組みをコミカルなタッチで展開しています。行政が地球温暖化への取り組みを扱う場合、往々にして真面目でお堅い内容になりがちです。それだけに軽快さがとても印象に残りました。

内容は、クールビズや階段利用、マイボトルの使用など11の「すゝめ」をコンパクトにまとめています。「すゝめ」ごとに「消灯しよう♪」とか「水筒使おう♪」といったキャッチコピーとともにサウンドロゴが流れ、岩倉市のキャラクター「い〜わくん」が登場します。視覚的、聴覚的に単純な羅列にならない演出がされています。また階段利用の消費カロリーや無理をしないという言葉をさりげなく表示し、「押しつけ」を感じさせない優しさがありました。さらにこの作品が「自主制作」であることに注目すると、そのクオリティの高さもさることながら、出演されている職員の皆さんの表情からチームの一体感が伝わってきます。素晴らしい作品でした。